

(様式3)

## 自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者に「心地よく、安心して、その人らしく」過ごしていただけるように、「ゆったり、楽しく、自由に、その人らしく」の理念のもと、サービス提供を行っている。</p>	<p>地域密着型サービス事業所として、今後も引き続き利用者が地域の中でより良く暮らしていけるよう事業所全体で検討していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>年度毎に基本方針を策定し、その方針に則って日々の介護を行っている。</p>	<p>今後も全職員が理念を共有し、実践していけるよう、話し合う場を多く持ち、日々努力していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で理念・基本方針を説明しており、家族・地域の民生委員やボランティア等にはグループホーム便りや法人機関紙を送付し広報に努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>職員は利用者との買い物、散歩、植木の手入れ等の際、近隣の方々と接する機会がある時には挨拶やコミュニケーションに努めている。近隣からのボランティアの受入れも行っている。</p>	<p>より多くの近隣の方々と気軽な付き合いができるよう、運営推進会議等を通じて地域の方々へグループホームを知ってもらおうよう努めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会主催の催しへ定期的に参加している。又、小学校の行事や地域の行事(夏まつり等)にも参加し、地域と交流するよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	見学や相談があった場合はその都度対応してい る。又、併設の特別養護老人ホームや地域包括支 援センター等と法人全体で取り組んでいる。		グループホームの見学会等、地域の方に役立つよ うなことを検討していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については全員が理解し、評価後は取 り組める所から改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度、運営推進会議を開き、その中 で評価結果を報告している。又、会議で出された 意見は前向きに職員間で話し合いサービス向上に 繋げるよう努めている。		今後も会議内容を充実させ、サービスの向上に繋 げていきたい。
9	市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	市所管主催の集団指導や研修会等に参加し、サー ビスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	併設の地域包括支援センターから適宜情報を得る ようにしており、資料等を揃え必要な方が出た場 合は支援できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	職員会議等で高齢者虐待・身体拘束についての勉 強会を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約及び解約の際は、管理者が説明を行い、理解・納得を得られるよう行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。又、運営推進会議にも参加してもらい意見を表せる機会を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に健康状態や金銭関係等随時報告を行っている。遠方の家族には、メール等で連絡している。その他、ホーム便りを送付する際に担当者からの近況報告を送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置している。又、運営推進会議にも参加してもらい意見を表せる機会を設けている。その他、カンファレンスにてホームに対する意見も聴き取るよう努めている。</p>	<p>今後も家族等が気軽に意見を表せるような雰囲気づくりに努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議やミーティング、随時の面談で職員の意見を聞き、運営に反映するよう努めている。又、意見箱を設置している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員会議やミーティングの中で、必要に応じ業務内容を見直し、調整を行っている。又、利用者の状態の変化や行事等がある際は、適宜調整を図っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えており、馴染みの関係を崩さないよう努めている。また、新しい職員が入职した場合は、引き継ぎを確実にし、利用者や家族に不安を与えないようにしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等に応じ、実務者研修やリーダー研修に参加するようにしており、また、随時に積極的な施設外研修への参加を促している。法人全体での施設内研修と事業所での研修も適宜実施している。		引き続き、積極的な研修会への参加を奨励し、職員の資質の向上に努めたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の地域包括支援センターによる地域連絡会へ参加し、情報を収集するとともに、近隣のグループホームや居宅サービス事業所との交流を図っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体の親睦会等への参加などにより人間関係を広げストレス解消の一助になるよう配慮するとともに、出来るだけ話を聞くよう努めている。		職員のストレスを軽減できるよう、出来るだけ話を聞く時間を設けていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し、職員個々の経験や能力に合わせ前向きに取り組むためにサポートするよう努めている。又、資格取得等、職員の向上心を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面接を行い、本人の状態を把握するとともに、本人の困っていることや求めていることを聴き取るようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時や面接時に、困っていること等の具体的な内容を聴き取り、家族の気持ちを受け止めるよう努めている。また、入居後の不安も聴き取るようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の際に、当事業所で対応できないケースであれば他のサービスの説明や紹介を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には見学に来てもらい、グループホームの雰囲気を感じてもらっている。</p>	<p>空床時にショートステイの利用をしてもらうなど、個々の相談者に応じた対応を検討していきたい。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で起こる会話を通したり、入居者の過去の生活を話している中に話題を見つけたりしながら、支援したり、支援されたりと支えあう関係を築いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面会時には、積極的に職員から話をするようにして、入居者の心身の状況の変化を家族と共有しており、必要に応じて家族の協力、支援も得ている。		引き続き、職員と家族と一緒に利用者を支えていけるよう、家族と連携を図っていきたい。
29 利用者や家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前までの生活歴や家族との関係を本人・家族から聴き取り、より良い関係が継続できるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に連絡をとっておられたような親族、知人、入居以前のヘルパー等、馴染みの関係が途切れないように電話連絡や面会時等の支援を行っている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自分から他の利用者や交流が持てない方には、職員が間に入り利用者同士が関われるように支援している。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームから併設の特別養護老人ホームへかわられても他の利用者や面会に訪れている。また逆に、退所された家族もグループホームを覗いて下さったりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	出来るだけ1対1で接する時間を持つようしており、利用者の希望や意向の把握に努めている。	本人からの意向の聞き取りが困難な方には、しぐさや表情から思いを汲み取れるよう引き続き努めていきたい。
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入居の際、家族に生活歴シートの記入をお願いしたり、本人からも聞き取りを行い、カンファレンス等でこれまでの生活についての情報を共有するよう努めている。	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている</p>	日誌・ケース記録・連絡ノート・受診ノートにより、職員個々が把握した情報を全職員に伝達・共有出来るようにしている。個別の介護経過「出来る事・出来ない事」シートの記入を行っている。	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスには家族にも参加をお願いしており、家族及び本人の希望を取り入れた介護計画を作成している。	適宜、介護計画書を見直し、実状にあった計画書を作成していきたい。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	カンファレンス、職員会議等により利用者の状態に応じ個別の課題の把握に努め、見直しを行っている。	定期及び随時に見直しを行い、現状にあったケアを提供していくよう、計画書を充実させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の状態を出来るだけ細かく記録するようにしており、その他、日誌・連絡ノート・受診ノートにより、情報の共有・伝達ができるようにし、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		必要に応じ、「24時間生活変化シート」等を利用しながら、個別の細かい記録から気づきに繋げていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援や通院支援等可能な限り1対1での対応に努めている。又、併設の特別養護老人ホームやデイサービスの行事と一緒に参加したり、利用者や家族の希望により、併設のデイサービスを定期的に利用している方もいる。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア・民生委員を通じ、地域や学校行事に参加している。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前にデイサービスの利用を行っていた方などは、希望があれば併設のデイサービスの利用を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加しており、情報提供等を行っている。また、地域包括支援センター主催の地域連絡会へ参加している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、個々囑託医や入居前からのかかりつけ医にかかっておられる。体調変化ある時は、往診を依頼したり地域の医療機関に緊急で受診するよう支援している。		利用者及び家族が安心して生活していけるよう、引き続き、適切な医療が受けられるよう支援していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状に変化がみられた際には、家族に連絡し専門の病院等の受診を支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常細かな健康管理に関することは、併設の特別養護老人ホーム看護師に相談し対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはグループホームでの様子をできるだけ細かく病院へ伝えるようにしている。また、退院前には病院へ本人の状態を確認に行き病院関係者から情報を得ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた場合は、家族の面会時やカンファレンスの際に終末期のあり方について本人や家族の希望を聴き、囑託医とも話し合いを行い、対応につき全員が共有できるよう努めている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	自分たちができる範囲を職員間で話し合い、囑託医とも相談しながらチームとしての支援に取り組んでいる。		職員、囑託医、そして家族と十分に連携し、利用者が出来るだけ安楽に終末期を過ごしていただけるよう支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	特別養護老人ホームへ入所するために退居した例があるが、グループホームで提供していたケアの内容を出来るだけ細かく伝え、新しい場所・新たな職員によるケアが本人に負担とならないようにしている。	
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者に心地よく、安心して生活していただけるよう、言葉かけや対応に注意をはらっている。また、個人情報については保護規程に則って取り扱っている。	今後も利用者の誇りを傷つけることのないよう、言葉かけや対応に注意していきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	個々の利用者に合わせ、できるだけわかりやすく選択しやすい説明を行い、日常生活の中で常に利用者が自己選択できるようにしている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	食事や入浴、散歩等についても利用者のペースで過ごせるよう、その時々利用者個々の状態に合わせて対応している。	出来るだけ1対1の対応を行い、個々の利用者に合わせた生活を支援していきたい。
5			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	身だしなみ・服装については、利用者の希望に添うよう支援している。美容については、家族により行われている方、近くの店まで行く方などそれぞれである。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>楽しく、おいしく食事をしてもらえるよう、準備から片付けまで、利用者のペースに合わせた声かけ・見守りを行っていく。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>一人ひとりが自然な形で持てる能力を発揮して暮らせるよう、毎朝新聞を受け取りに行く、洗濯や洗い物をする、花に水をやる等、役割を持ち楽しく過ごしていただけるよう支援している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>身体拘束・高齢者虐待につき職員全員が理解し、身体拘束をしないケアを引き続き実践していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はかけない、日中玄関の施錠はしないこととし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中利用者がリビングで過ごしている間は、職員間で声を掛け合いリビングに常時1名は職員がいるようにし、転倒の危険性がある方などに注意している。夜間は、利用者のプライバシーに配慮しながら、居室内の確認をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、洗剤、薬等利用者が間違っ使用や誤飲をしないようキャビネット等に収納している。手指消毒液は容器にナンバーをつけ、置く場所を決め職員が随時確認している。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内研修や職員会議での勉強会などで救急対応や非常時の対応を確認している。また、事故報告書やヒヤリハット報告書を全職員が回覧し、個々の利用者の事故防止に努めている。		事故を防ぐため、全職員が救急時・非常時の対応が出来るよう、引き続き勉強会等を行っていきたい。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入職時の説明及びその後の研修会などで急変や事故発生の際に対応できるようにし、必要に応じ併設特別養護老人ホームの看護師に指導を受けている。又、事故対応マニュアルも設置している。		
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホーム職員にもグループホームの災害時についての対応を説明しており、又、隣接の介護老人保健施設とは災害時には相互協力を行うことを確認している。また、運営推進会議で地域住民の方へも協力を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時やカンファレンスにて事故発生の可能性について説明している。特に歩行が不安定になってきた利用者については、転倒の危険性について折に触れ説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、入浴時、更衣時等体調の変化に気を配り、気付いた点は申し送るとともに、日誌や連絡ノート、受診ノートなどに記録しその後の対応に結び付けている。		
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書により内容を理解し、変更や追加があれば、連絡ノートや受診ノートに記載するとともに申し送り時に説明し、職員間での情報の共有ができるようにしている。		誤薬のないよう確実に服薬し、服薬後の変化等についても見逃さないよう職員全員が意識を持って支援していきたい。
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	朝の牛乳摂取や便秘によいと思われる食べ物を摂って戴くなど、その日の体調を見ながら対応している。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいを支援している。また義歯管理の必要な利用者には職員が声かけして預り、洗浄している。必要時には、訪問歯科を依頼している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では、管理栄養士の管理のもとバランスの取れた食事を提供している。食事チェックや水分チェック表を作成し、摂取量を確認している。		摂取量が少ない利用者には、食事形態を変えてみたり、摂取時の姿勢等を検討してみるなど、必要量が摂取できるよう、引き続き支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルス等に備えての感染予防マニュアルを設置している。また、うがい・手洗い・手指消毒は日頃から徹底するようにし、感染予防に努めている。		感染予防・食中毒予防を引き続き徹底していく。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルを作成し、手洗いや、器具類を乾燥機にかける等除菌を行っている。		感染予防・食中毒予防を引き続き徹底していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに家族や近隣の方々が入りやすいように草花を植えるなど一般の住居のような雰囲気づくりに工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や光など利用者が不快・不穏にならないよう配慮している。テーブルに花を飾るなど家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は、自然にテーブルやソファ等それぞれ自分の居場所のような感じで確保されている。その他、空きスペースにも椅子を置き、ゆっくり過ごせるように配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		出来るだけ馴染みの家具や使い慣れたものをより多く持ってきていただくよう、家族にも声かけしていきたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの基本である家庭的な暮らし・生活の場を提供し、利用者個々の希望が叶えられるよう個別ケアを行うように努めています。

職員全員が将来自分が入りたいと思えるグループホームになるよう、より一層の質の向上を目指しています。

住宅地にありながら、草木・鳥の鳴き声など四季を感じられる生活環境が心地よく、利用者・家族に満足戴いていると思っています。